視察用

様式(細則 5-2)

平成　　年　　月　　日

浜田市議会議長
川　神　裕　司　様

議員名　　川 上　幾 雄　㊞

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

１．期　　間　　平成３０年５月９日（月）～平成３０年５月１１日（水）

２．視察先および研修テーマ

(1)場所　　栃木県佐野市　佐野市役所
　内容　　特定非営利活動法人エコロジーオンライン
　　①　認知症ケアの取組について
　　「オトトカラダ」プロジェクト
　　②　カラフルファームの取組について

(2)場所　　埼玉県横瀬町　横瀬町役場
　内容　　官民連携のまちづくり「よこらぼ」について

３．参加者　　川上幾雄、永見利久、串崎利行、上野茂
　　田畑敬二、西田清久、澁谷幹雄、川神裕司

４．調査経費　　３８９，２２０円／８人＝４８，６５２円

浜田市議会
受
30.6.8
付

5．調査研究活動の概要

1．特定非営利活動法人エコロジーオンライン

① 認知症ケアの取組について

「オトトカラダ」プロジェクト

（内容）

(1)背景

佐野市は北関東の交通の要衝であるが、東京中心部から約 70 kmで首都圏通勤圏の外側部に位置している。平成 17 年に 1 市 2 町が合併し現在の佐野市を構成し、現在の人口は約 11,900 人であり、この 10 年で約 7,000 人の減となっている。

地方都市の例にもれず、佐野市の高齢化率は現在約 28%と上昇傾向となっており、高齢者介護への対応も重要施策となりつつある。

介護は、される側もなす側も互いの平安を生み出すことに多くの工夫を必要とすることが課題であろう。また、平成 27 年に制定された「佐野市障がい者福祉計画」における第 1 目標「支え合うまちづくりの推進」にも通じる。

(2)特定非営利発動法人エコロジーオンラインについて

当法人は、「普通の人のエコロジー」というプロジェクトから 18 年前に生まれ、循環型社会をつくるために環境省と協働した「Re－Style」、日本の森を守るために応援した林野庁の「木づかい運動」、地球温暖化抑止のためにソニー株式会社や毎日新聞と手がけた「そらべあ」など、様々な国民的キャンペーンを展開されている。

また、当法人の代表は国際基督教大学卒業を経て、株式会社ソニーミュージックエンタテイメント入社、その後フリーライターに転身、2000 年に当法人を設立されました。インターネット事業を核に多くの事業をなされ、音楽に関しては過去の「エレファントカシマシ」の担当を始め、最近では自ら企画監修した「MUSIC GO! GREEN 風の国から」をリリース。

現在、音楽による高齢者ケアを呼びかけ、「パーソナルソング」の全国上映会を実施。「コンテンツフォーケア」の立ち上げのために活躍されている。

(3)「オトトカラダ」プロジェクトについて

前記の背景や法人の成り立ち活動の中で、音楽で認知症をケアする活動「オトトカラダ」プロジェクトが始められた。

この活動は、ソーシャル・ワーカーのダン・コーエンが、iPod を使って認知症の人に思い入れのある曲を聞かせれば、曲の記憶とともに当時の自分や家族

のことなど何かを思い出すのではないか、ということを思いつく。そして施設で認知症を患っていた患者に音楽を聞かせてみたところ、自分の娘の名前さえ忘れていた患者が劇的な変化を見せ、若いころの記憶を取り戻したことからダンと音楽監督マイケル・ロサト＝ベネットの３年間に及ぶ取材が始まり、名曲が次々と人々を目覚めさせていった。その後、ミュージック＆メモリーと名付けられて音楽療法がスタートされた。

そして、この活動が「パーソナル ソング」として映画化され、撮影途中のショートムービーをインターネットでアップしたところ１週間で700万回も再生され、全米で注目されることとなる。映画の公開も後押しし、現在７か国650カ所以上で行われている。

この活動を当法人が、「音楽で認知症をケアする活動」として、日本で初めて Music & Memory のトライアル事業「オトトカラダ」(2017年８月クラウドファンディング成功）をスタートされた。このことについて本年 11 月に実施される学会で論文を発表される予定があるとのことである。

② カラフルファームの取組について

(内容)

(1)背景 … 前記

(2)特定非営利発動法人エコロジーオンラインについて … 前記

(3)合同会社風の丘福祉工房について

就労移行支援事業として「稼ぐ力を支援する」をコンセプトに、病気や障害がある方のため就職を支援する「就労支援センター風の丘」を、定員 20 名で運営されている。

事業としては

① ユニバーサル農業を目指す農業法人との連携
就労支援施設からの雇用の受け皿となる農業法人の育成

② 就労支援施設が手がける農業の支援（就労支援センター「風の丘」）
利用者が作った野菜を販売するマルシェの活性化支援

③ 就労支援施設で働く人材と農業生産法人との連携をコーディネート
若手農業者たちとの就労支援施設とのマッチング

④ 里山保全事業での障がい者雇用の模索（里山ウエルネス研究会）
長野県飯山市での林福連携事業

また、就労支線センター風の丘のカフェスペースで、「懐かし歌謡カフェ♪ミューズ（認知症予防のためのカフェで昭和歌謡を中心とした音楽を届ける)」を実施しているとのことである。

所感

高齢者・認知症患者の看護で音楽を活用することは以前から行われている。

しかし、この「オトトカラダ」プロジェクトは、患者の 10～15 歳の時期に聞いたであろう音楽を探し出し聞かせ、当時の記憶をよみがえらせ、患者の興奮状態や幻覚・錯乱の減少、患者同士の協力と周囲への関心度合の増大、周りの人との関わり方や社交性の向上、痛み・うつ状態・不安や不眠症に苦しむ患者への薬物支障を伴わないケア、高血圧症患者も含む施設の患者に対する鎮静・リラックス効果など、パーソナライズされた音楽の有効性を活用して、認知症患者のケアのみならず、患者の心が安定することにより介護者や関係者に余裕が生まれるなど、このプロジェクトが有効であろうと思われる。あわせて、このような活動を種々の機会を活用していく様子もうかがえ、展開の方法も参考となった。

今後、このプロジェクトの進展を注目するとともに、浜田市においても「認知症ケア」への取組みとして活用すべきであり、公民館、地域活動団体への情報提供も積極的に行う必要がある。

2．官民連携のまちづくり「よこらぼ」について

（内容）

(1)背景

横瀬町は埼玉県北部に位置し、石灰の一大産地であり大きな産業としては秩父セメントが有名である。平成17年頃の広域合併の流れに乗らず単独町政を現在も継続されている。現在の人口は約8,200人であり、この10年で約800人の減となっている。

「行政の努力と町民の協力で健全な財政運営を推進します」を示し、一般会計予算額は34億1千万円、特別会計予算は保険・医療・水道等約20億円で財政運営がなされている。

(2)「よこらぼ」について

アイデアを外部から集める官民連携のまちづくりとして、1年余り前に始められたのが「よこらぼ」と名付けられた事業である。

「よこらぼ」は「横瀬町とコラボ（協力）するラボ（研究所）」という意味で、企業などからの提案を受けて町が持つ資源を共同で有効活用する仕組みで、すでに22件の「よこらぼ」事業が動き出している。自治体版のシェアリングエコノミーの試みであり新たなまちづくり手法として定着するか注目を集めている。

所感

先ず、この町の印象が素晴らしかった。

なぜならば、清掃されゴミの落ちていない道路、庁舎周辺を清掃されている方の応答、職員の方々の笑顔、率先して私たちをお迎えいただいた町長。

そして、道の駅での中堅職員の説明をうなずくように聞く課長や副議長。
このように、内外、上下においてよい関係性が築けていると感じられ、小規模自治体の良さが見受けられたことである。

さて、「よこらぼ」について肝心なことは、事業に対して町が予算を付けていないが、保有している施設、町民への協力依頼、町職員の事業への応援などは十分行われていることにある。背景には、現町長の行政改革と徹底した「ハコモノを作らない」、「人口減少を抑える」、「人口減少に備える」政策から生まれたものと覗える。

企業などからの提案（プロジェクトやアイデア）を、現有公共施設や町民、職員での応援が可能で、斬新で町に有意な事を確認審査し、「よこらぼ」の冠を付けた事業として認可することにより、企業には「行政が認可した」との広報性を受取ることができる。そして、町の出費無く企業が「人・物・カネ・情報」を負担し、「横瀬町」のコマーシャルを企業がしてくれ、町への関心を生み出し、企業進出、人口増（人口減少の抑制）が図られると企てたようである。

この事業が進みだして１年余りであるが、すでに多くの事業が動き出しており有効な施策と思える。しかし、これを実行するにはノウハウと行政の対応、住民の理解が不可欠であり、事前準備を十分行えば浜田市でも実行可能とおもえる。

以上